

令和6年度 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校 各学部・分掌部重点目標に対する校内評価

＊幼児期の教育は、その後の学校教育全体の基礎を培う役割を果たしており、本校は、聴覚障害幼児の早期教育を使命とする特別支援学校である。 ・幼児期にふさわしい生活を通して、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」「障害による困難を改善・克服するための力」を育む。 ・家庭と連携して心の基盤を形成し、様々な人々との交流や、家庭ではできない豊かな経験ができる場とする。 ・一人一人の発達の特徴や特性、障害の程度に即し、保育する聴覚や視覚的な情報を十分に活用し、言葉を用いて人との関わりを深め、言葉の習得と概念の形成を図る。						
(ア) 聴覚に障害のある幼児の心身の調和のとれた発達を促すための教育的支援を行う。 (イ) 幼児一人一人の実態把握を的確に行い、聞こえや発達の課題に即した指導を通して、幼児の個性と能力の伸長を目指す。 (ウ) 家庭と協力をして教育を進め、愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。 (エ) 保育する聴覚や視覚的な情報などを活用し、興味や関心をもって取り組むことのできる活動を創意工夫し、様々な経験を積み重ねながら言葉の習得できるようにする。 (オ) 社会・文化・自然などに触れ、幼児の自発的な活動としての遊びや様々な人々との交流や、発達段階に応じた学習形態や指導内容を工夫した食育、防災や安全教育等を通して、生きる力の基礎を培う。 (カ) こばと聴覚支援センターの発足により、関係機関や地域等とより一層連携し、聴覚障害児の早期教育・支援に取り組み、聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。						
自己評価基準 A達成している B おおむね達成している Cあまり達成していない D達成していない						
学部分掌	学校経営の重点		評価			
	各部の実践目標	成果と課題	各部評価	校内評価	校内評価割合	
保育相談部	(ウ)家庭と協力をして教育を進め、愛情に満ち心の通い合う育児が行えるよう、保護者の支援を行う。					
	家庭と連携しながら子どもの興味や発達に即した支援を行うために、おやこ日誌の活用を進める。	クラスの実態に応じて形式を変えながら、継続して取り組むことができた。おやこ日誌だけでなく、普段の保育の中での保護者とのやりとりも大切にして、連携を深めることができた。	A	A	7% 93%	
	月1回程度午後の時間を、担任との懇談や保護者の研修の機会として設定し、保護者同士の交流と学びが深められるようにする。	月1回程度、充当日を設けて保護者同士の交流や研修、保護者の悩みを話し合うなど、午後の時間を有意義に活用することができた。全員が参加できない日もあるので、参加しやすい形や参加できなかった時のフォローを今後工夫していきたい。	B	B	7% 20% 73%	
幼稚園部	(ア)聴覚に障害のある幼児の心身の調和のとれた発達を促すための教育的支援を行う。					
	他学年との保育活動の機会を増やし、友達同士のやりとりを活発に行う中で協同性や道徳性、言葉による伝え合いの力等を育む。	なかよしあそびの活動を毎日設定し、異年齢とのかかわりや、クラスより人数の多い集団での活動の機会を増やした。活動の中で協同性や道徳性等、様々な力を育めた。幼児やクラスの実態に合わせて異年齢の友達とのかかわりをより深め、友達同士のやりとりが活発になるよう、取り組みを考えた。	B	B	67% 33%	
自立活動部	(イ)幼児一人一人の実態把握を的確に行い、聞こえや発達の課題に即した指導を通して、幼児の個性と能力の伸長を目指す。					
	(エ)保育する聴覚や視覚的な情報などを活用し、興味や関心をもって取り組むことのできる活動を創意工夫し、様々な経験を積み重ねながら言葉の習得できるようにする。					
	【3歳児発音遊び・4・5歳児発音個別】幼児の実態に合わせて、発音の基礎となる口・舌の動きや呼吸の練習、音韻意識を持つための練習や発音要領の練習に取り組み、呼吸の習熟や音韻意識・発音要領の獲得を目指す。	聴能担当やクラス担任と、幼児の聞こえやクラスでの発音の様子等を情報共有しながら進められた。発音要領だけでなく幼児の実態に合わせて個々の課題に取り組めた。次年度はさらに密に連携を取りながら、一人一人の実態により合わせた課題に取り組むたい。	B	B	27% 73%	
聴覚支援センター・支援部	【5歳児聴能個別】・イラストや文字などの視覚教材を活用しながら、情報を獲得するための手段や言い方を覚えられるようにする。・自分の補聴機器について、部品の名称を覚えたり、電池交換をしたりするなど、自ら管理しようとする態度を養う。	クラス担任と情報共有を図りながら、幼児の聞こえやコミュニケーション手段など、個々の実態に合わせて保育を行った。語音検査やクイズなどを通して、自分の聞こえ方に気が付いたり、相手の顔を見て話す、などの対処法を体験を通してながら学ぶことができた。次年度は、子どもが、より楽しい気持ちで学べるよう、保育の内容を工夫したい。	B	B	13% 87%	
	(ア)聴覚に障害のある幼児の心身の調和のとれた発達を促すための教育的支援を行う。					
聴覚支援センター・支援部	(カ)こばと聴覚支援センターの発足により、関係機関や地域等とより一層連携し、聴覚障害児の早期教育・支援に取り組み、聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。					
	【聴覚支援センター】 ・こばと聴覚支援センターだよりを計画的に発行し、難聴児の関わり方などについて情報を発信する。 ・関係機関との連携を密にするため、対面やリモートなど多様な場を設定する。	・こばと聴覚支援センターだよりを、2学期の時点で2回発行し、聴能や福祉の利用に関することを掲載した。基本的な内容も含め、まだまだ発信したい情報があるため、次年度も継続的に発行していきたい。 ・今年度も、直接病院に出向いたりリモートを活用したりして、医師や言語聴覚士と情報交換ができた。情報交換会を通して、日ごろからの連携がより取りやすくなった。	B	B	7% 6% 87%	
	【支援部】 進路支援計画に基づいて、担任と連携しながら、保護者に寄り添った進路支援を行う。	・昨年に引き続き、1学期に進路相談会を行った。進路についての情報や、次年度以降の通学の仕方や本校の利用方法などを提供し、保護者の思いをくみ取りながら実施することができた。	B	B	20% 80%	
総務部	(ア)聴覚に障害のある幼児の心身の調和のとれた発達を促すための教育的支援を行う。					
	・儀式や生活発表会などの幼児が活躍できる学校行事の企画・運営を行い、ホームページを活用して幼児の頑張りを発信する。 ・水害避難訓練、総合避難訓練等各種防災訓練を、幼児の実態に応じた視覚教材を用いて実施し、災害に対する備えと幼児の理解につなげる。	・儀式での年長児の歌唱や各クラスで練習を積み重ねた生活発表会など、幼児が活躍できる機会を設定し、ホームページで発信した。また、学校行事以外の教育活動については、ブログを活用して発信を行った。担当者を決めて行ったので、月1回程度更新ができた。よりよい発信を目指して、今後更新のペースを検討していきたい。 ・各種防災避難訓練については、視覚教材を用いて実施し、幼児の理解につなげることができた。視覚教材については、継続して使えるように残していきたい。	B	B	20% 80%	
教務部	(イ)幼児一人一人の実態把握を的確に行い、聞こえや発達の課題に即した指導を通して、幼児の個性と能力の伸長を目指す。					
	・校務支援システムを活用し、幼児一人ひとりの特性やニーズに合わせた個別的教育支援計画を策定する。 ・保護者との情報共有のための資料を作成し、教育支援計画の内容を充実させ、個別の指導計画作成に活かす。	担当者が校務支援システムの操作について、教員向けに事前レクチャーを行い、システムを活用した個別的教育支援計画を作成することができた。また、保護者と合意形成をはかるために必要な項立を検討し、資料を作成した。次年度の教育支援計画に反映させ、個別の指導計画作成に活かしたい。	B	B	13% 87%	
生活・保健部	(オ)社会・文化・自然などに触れ、幼児の自発的な活動としての遊びや様々な人々との交流や、発達段階に応じた学習形態や指導内容を工夫した食育、防災教育を通して、生きる力の基礎を培う。					
	幼児が食に関して興味・関心を持てるよう、季節や行事に配慮した給食を実施したり、食に関する体験活動の機会を計画的に設ける。	栽培やクッキング等の体験活動の機会を設けることができた。諸物価高騰のため、季節や行事に配慮した献立の例年通りの実施が困難になってきた。	B	B	60% 4%	
	幼児が親しみをもって楽しめるよう、玄関のホワイトボードに季節の感じられる教材を設置する。	玄関のホワイトボードに季節を感じられる教材を設置することで、教材を活用しながら遊ぶ幼児が増えた。どの幼児にも活用してもらえよう、幼児の発達段階を考慮した教材の工夫をしたい。	B	B	33% 67%	
	幼稚園は5月に校内で安全な横断歩道の渡り方を伝え、練習を行う。11月には幼稚園・保育相談部合同で警察と連携して交通安全教室を実施し、子どもの実態に合わせてシートベルトの必要性や信号機を使つての横断方法を指導してもらった。また、交通安全教室後に保護者対象の講話を実施し、親子で交通安全への意識を高められるようにする。	5月に行った横断歩道の渡り方の練習では、その後も横断歩道を意識して、約束を守るとする姿が見られた。11月の西宮市役所交通安全対策課主催の交通安全教室では、内容を簡潔にし、視覚的にもわかりやすく提示してもらったことで、全学年が最後まで集中して参加することができた。保護者対象の講話にも今年は幼稚園全員の保護者が参加し、交通安全への啓発ができた。	A	A	13% 87%	
	幼児期に身に付けたい基本的な生活習慣が確立できるよう、保護者や学校医等と連携し、支援する。また、幼児期に気を付けたい疾病（弱視予防や歯と口の健康など）について、学校医等と連携し保護者にに対し必要な助言等を行う。	幼児期に気を付けたい疾病について、学校医と連携し、ほけんだよりを通して保護者へ発信できた。保健指導を通して生活習慣に関する内容を幼児に伝えることはできたが、今後は保護者や学校医との連携を増やし、発信方法を工夫していきたい。	B	B	7% 20% 73%	
研究部	(イ)幼児一人一人の実態把握を的確に行い、聞こえや発達の課題に即した指導を通して、幼児の個性と能力の伸長を目指す。					
	外部専門家活用事業やST派遣を通して、聴覚障害教育や幼児教育についての知識を深めたり、指導方法を学んだりして、保育で活かす。	外部専門家活用事業・ST派遣とも計画通り実施し、聴覚障害教育や幼児教育等について学びを深められた。さらに保育に活かせるよう、招聘する講師や研修内容を考えていきたい。	B	B	67% 33%	